

## 訪日外国人観光客の宿泊需要に関する要因分析 —東北地方を対象として—

### Factor Analysis on Accommodation Demand of Foreign Visitors in Japan —Case of Tohoku Region—

指導教授 轟 朝幸 兵頭 知

8086 保坂 直哉

#### 1. はじめに

わが国は、2000年代から訪日外国人観光客の誘致に力を入れており、日本における訪日外国人訪問者数は年々増加している。2003年は621.9万人<sup>1)</sup>であったが、2019年には、約3,188万人<sup>1)</sup>、インバウンド消費額は4.8兆円<sup>1)</sup>に上り、大きな経済効果が認められている。

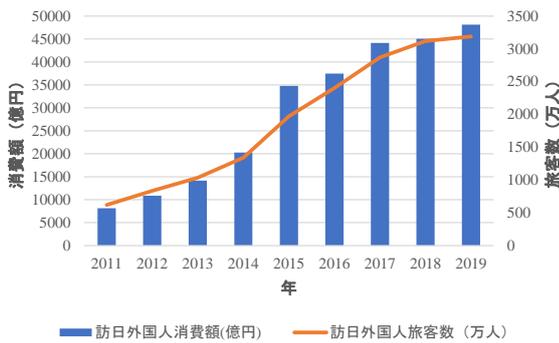


図-1 訪日外国人旅客数とインバウンド消費額

本研究では、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)収束後、インバウンド需要が徐々に回復していくという条件の下、研究を進めていく。

東北地方は、他地域と比較して観光で訪れるインバウンド旅客や宿泊需要が少ない傾向が見られる。これらの原因は、九州地方との比較や既存研究から、主要空港の国際定期便の本数、到達所要時間(サービスレベル)、観光地であると考えた。そこで、今後のインバウンド旅客数増加が期待できる東北地方を対象とし、その影響を与える宿泊需要要因を抽出し、分析を行う。

#### 2. 既存研究と本研究の位置付け

日本政策投資銀行が行った、インバウンド意向調査<sup>2)</sup>によると、新型コロナの収束後に日本を訪れたい外国人はアジアで89%、欧米豪で81%という結果になっており、需要弾力性が見て取れる。

清水ら<sup>3)</sup>は、韓国人は九州地方、台湾人は東京・大阪、中国人は関東・関西を周遊するルート(ゴールデンルート)の訪問が多いことを明らかにした。また、地方部における延べ宿泊者数に対する直行便や世界遺産の影響を課題点としていた。これらの研究では、東北地方に着目されていない。そこで本研究では、宿泊需要要因を特定する為、空港と観光地、中心市街地へ

のアクセス、世界遺産などがどのように影響しているのか明らかにする。

#### 3. 研究方法

本研究を行うにあたって、要素間の関連を見つけるための相関分析、要素の影響度合いを把握するための重回帰分析を行った。

重回帰分析の式については、以下の通りである。

$$Y = \beta_0 + \beta_1 x_1 + \beta_2 x_2 + \dots + \beta_n x_n \quad (1)$$

Y:目的変数 X:説明変数  $\beta$ :偏回帰係数

目的変数 Y: 県別外国人延べ宿泊者数(宿泊旅行統計調査)

説明変数 X: 訪問者数・周辺の観光地・空港サービスレベル(便数)

訪日外国人観光客の周遊パターンを図-2に示す。



図-2 訪日外国人の周遊パターン

対羽田空港、対仙台空港、対地元空港の時間算出に際しては、表-1~表-3のように算出を行った。

表-1 対東京の所要時間イメージ

対東京	国内線利用	新幹線利用
STEP 1	国内線飛行時間 (羽田空港出発)	新幹線乗車時間 (東京駅出発)
STEP 2	中心駅までの移動時間	中心駅までの移動時間(青森県)

表-2 対仙台的所要時間イメージ

対仙台	鉄道利用	バス利用
STEP 1	仙台空港アクセス線 (25分)	
STEP 2	中心駅までの移動時間	中心駅までの移動時間

表-3 対地元の所要時間イメージ

対地元		バス利用
STEP 1	中心駅までの移動時間	

4. 相関・重回帰分析結果

4.1 相関分析

相関分析の結果、訪日外国人の延べ宿泊者数は、直行定期便数に正の相関が見られたが、国立国定公園、温泉地の数、対仙台、地元空港の到達時間には負の相関が見られた。また、スキー場、外国人訪問者数、世界遺産や国宝・重要文化財、対東京の到達時間には相関が見られなかった。相関分析の結果を表-4～表-5に示す。

表-4 相関分析結果（訪問者数・周辺の観光地）

	延べ宿泊者 (人泊)	外国人 訪問者数 (人)	スキー場 (箇所)	宿泊施設数 (箇所)	世界遺産 (箇所)	国宝 +重要文化財	国立国定公園 (箇所)	温泉地の数 (箇所)
延べ宿泊者 (人泊)	1.00							
外国人 訪問者数 (人)	-0.17	1.00						
スキー場 (箇所)	-0.16	-0.20	1.00					
宿泊施設数 (箇所)	-0.22	-0.12	0.79	1.00				
世界遺産 (箇所)	0.04	-0.14	-0.32	-0.50	1.00			
国宝 +重要文化財	-0.08	-0.16	0.96	0.65	-0.36	1.00		
国立国定公園 (箇所)	-0.41	-0.34	0.32	0.18	0.40	0.18	1.00	
温泉地の数 (箇所)	-0.46	0.23	0.17	0.29	-0.22	0.10	0.09	1.00
対東京到達時間 ・飛行機 (分)	-0.09	-0.17	-0.41	-0.59	0.94	-0.44	0.50	-0.19
対東京到達時間 ・新幹線 (分)	-0.18	-0.08	-0.64	-0.68	0.48	-0.66	0.46	-0.11
対仙台到達時間 ・鉄道 (分)	-0.34	-0.16	-0.38	-0.33	0.31	-0.47	0.68	0.00
対仙台到達時間 ・バス (分)	-0.12	-0.08	-0.38	-0.33	0.61	-0.51	0.64	0.06
対地元空港 到達時間 (分)	-0.35	-0.36	0.29	0.20	0.64	0.14	0.84	0.00
国際線直行 定期便数(週/便)	0.64	0.17	-0.37	-0.26	-0.28	-0.26	-0.88	-0.09

表-5 相関分析結果（空港サービスレベル）

	対東京到達時間 ・飛行機 (分)	対東京到達時間 ・新幹線 (分)	対仙台到達時間 ・鉄道 (分)	対仙台到達時間 ・バス (分)	対地元空港 到達時間 (分)	国際線直行 定期便数
対東京到達時間 ・飛行機 (分)	1.00					
対東京到達時間 ・新幹線 (分)	0.68	1.00				
対仙台到達時間 ・鉄道 (分)	0.52	0.92	1.00			
対仙台到達時間 ・バス (分)	0.66	0.74	0.76	1.00		
対地元空港 到達時間 (分)	0.66	0.25	0.40	0.47	1.00	
国際線直行 定期便数(週/便)	-0.38	-0.32	-0.55	-0.41	-0.78	1.00

国際線直行定期便就航地は、チャーター便で利用実績が継続的に認められ、需要があるため、正の相関が見られたのではないかと考えられる。

世界遺産が空港や鉄道駅といった地点から離れた位置に所在していること、国宝や重要文化財の文化的貴重性が訪日外国人観光客に伝わっていないこと、またガイドブックの掲載や観光地化がされていないこと、宿泊施設と観光地間の距離が離れていることが相関の見られない原因として考えられる。

対仙台や地元空港と比較して、対東京の到達時間の相関が低いことから、東北地方に直接入り、周遊を行

っている傾向がわかる。

4.2 重回帰分析

続いて、空港サービスレベルの要素間の影響度合いを調べる目的で、重回帰分析を行う。結果を表-3に示す。

表-6 重回帰分析結果

	係数	標準誤差	t	P-値
切片	3612526.41	1766343.93	2.05	0.05
対東京到達時間・飛行機 (分)	-104362.50	49270.02	-2.12	0.04
対東京到達時間・新幹線 (分)	35666.44	16951.46	2.10	0.04
対仙台到達時間・鉄道 (分)	-36463.83	17181.85	-2.12	0.04
対仙台到達時間・バス (分)	1926.67	819.29	2.35	0.03
対地元空港到達時間 (分)	130949.42	59346.40	2.21	0.04
国際線直行定期便数(週/便)	18712.65	4558.49	4.11	0.00

t値やp値が概ね良好な値となり、当てはまりが良いことが分析を通じて明らかにされた。このことから、空港サービスレベル要素間がそれぞれ影響していることの裏付けになった。

5. まとめ

5.1 結論

本研究は、宿泊需要が主要空港の国際定期便の本数、到達所要時間（サービスレベル）、観光地によって影響されると仮定して分析を行った。分析結果から、訪日外国人観光客の宿泊需要は、一部の観光地や空港サービスレベルに影響され、訪問者数には影響されることがわかった。訪問者数のみに囚われず、周辺の立地状況などを鑑みながら、宿泊を増加させるような観光誘致・施策が必要ではないかと考える。

5.2 今後の課題

この研究を通して、日本各地域の魅力度が宿泊需要要因に関連すると思われるため、地域の魅力度を考慮し、国際線チャーター便数も要素として組み込むことで、より精緻な分析ができるのではないかと考えた。

謝辞：株式会社日本空港コンサルタンツ熊澤将之様には、終始ご指導を賜りました。ここに謝意を表します。

参考文献

- 観光庁：訪日旅行促進事業、  
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/kokusai/vjc.html>,  
(最終閲覧：2022.01.16)
- DBJ・JTBF:  
アジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査、  
[https://www.dbj.jp/topics/investigate/2021/html/20210524\\_203271.html](https://www.dbj.jp/topics/investigate/2021/html/20210524_203271.html), (最終閲覧：2022.01.22)
- 清水哲夫：訪日外国人旅行者（中国・韓国・台湾）の延べ宿泊者数に対する影響要因についての研究、  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jitr/30/2/30\\_5/\\_pdf-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jitr/30/2/30_5/_pdf-char/ja),  
日本観光学会機関誌,Vol.30,No.2,pp.5-13,2019.